



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

早くも梅雨入り。我が家の周りも田植えが済み、夜にはカエルの合唱が始まりました。庭が賑やかだと思ったら、ゆすら梅の実に沢山の鳥が来ています。隣の畑には枇杷も色づき始め、今年も自然は何事もなかったように時を刻んでいます。

5月は若い方々のパワーを沢山いただきました。南相馬のボランティアに行く方に車を貸すという支援で参加できました。「片浦中で遊ぼう」には作品と根府川の景色も友人にお見せしたくて3回お邪魔しました。「ひでひこ展」でも多くの方とつながる若い作家に忘れかけていたことを気付かされた気がします。

夏の準備に朝顔のこぼれ種を沢山植えました。緑のカーテンで快適な夏にしようと、水やりに精の出る6月のスタートです。



新九郎 6月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ
6/1(水)2(木) 5(日)6(月) 三井節子写真展	優美なる写真展。女性しか創れぬ何か大きな宇宙観。混沌と秩序の世俗に存在しながらも、決して濁らぬ花芯は見事である。池谷俊一
6/4(土) 昼下がりの語りと朗読の会	五周年記念・最終回！時代小説玉手箱、朗読・講談・朗読劇[出演]浅野玲子・武田由紀雄 西村久代・東古城京越[シャンソン]AYAKO[総合演出]浅野玲子
6/8(水)-13(月) 美しい風景に魅せられて50年記念展 堀内三四二	油絵を始めて50年 二人の師(故)高橋賢一郎先生(故)柏木房太郎先生に師事
6/12(日) 新九郎デッサン会	モデル：インド古典舞踊家[茶谷祐三子さん]参加費 2000円
6/15(水)-20(月) VISION2011	現代アーティスト8人による展覧会 飯室哲也・梅原美喜子・加藤富也・ゲロリ・フラス・新里陽一・服部賢司・松浦延年・宮下圭介
6/22(水)-7/4(月) 希少本いろいろ展	一初めての本に会えるかもー 関東大震災の新聞も 収集/日達良文

会期・展覧会名	会場
6/16(木)~20(月) じゅうにんといろ展	アオキ画廊 0465-23-5624
6/22(水)~27(月) 一線美術会小田原グループ展	飛鳥画廊 0465-24-2411
6/4(土)~26(日) Art Now in 清閑亭	清閑亭(旧城内高校向) 0465-22-2834
6/8(水)~13(月) モザイク画展	お堀端画廊 0465-23-7819
6/1(水)~6(月) 工房 手土手 作陶展	飛鳥画廊 0465-24-2411
6/15(水)~20(月) 生江葉子展	飛鳥画廊 0465-24-2411
6/29(水)~7/4(月) 古希書展 淵乎	飛鳥画廊 0465-24-2411
5/31(火)~6/12(日) 加藤肇司 2011-闇の中で-	すどう美術館 0465-36-0740
5/31(火)~6/12(日) ノモトヒロシ展	すどう美術館 0465-36-0740
6/23(木)~29(水) 第2回大磯湘(絵画)展	大磯町立図書館 2F 0463-61-3002
6/6(月)~12(日) 住谷美知江展	O ギャラリー(銀座 1-4-9) 03-3567-7772
6/4(土)~6(月) 村上敬展 うつわの中の進化論	ぎやらりーさざれ石 0463-67-9662
6/2(木)~6/5(日) ためしに垣根を越えてみる	ツノダ画廊、オービックビル、 倭紙茶舗「江嶋」銀座通り

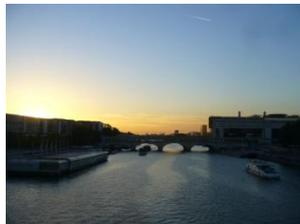
パリだより

横井山泰



アトリエは、北マレの中心、ブルターニュ通りにある。カフェも画材屋もギャラリー街も目の前であるが、マンション 6 階のアトリエに入ってしまうと、なかなか外に出ない。相模原の僻地と意外と変わらない。そんな話を、近所のアパレルの知人にしたら「案外そんなもんですよ」とのこと。とはいえ、先日の午後、都会の気軽さで、市立近美のヴァン・ドン・ゲン展に行った。「孫悟空がお釈迦様の手の中を飛び回っていた話」を思い出した。ニュースとユダヤ美術館のシャガールでも感じたのだが、かなり影響を受けている。僕が「自然と出来た」と思っていた発想が、そこ彼処にあった。お

そらく画集で観て、観た事も忘れていたのだろう。同じ様な事は他にもある。浪人時代、アニメ「シン普森ズ」を観ていた。15年後パリでTVを観て驚いた。僕の作品「独裁者」が、バーンズ社長と似ている！彼の大きな椅子も！人間の観る力、無意識の記憶、おそろべし。先程の彼曰く、「迷った時は直観です。」僕も同感。「掌」から飛び出す勇氣、観た事のない作品を造りたい。窓の外、遙か郊外のビルには22時の夕焼けが照っている。



小田原怪獣散歩

若林寧人

子供の頃から大好きな怪獣で、大好きな故郷小田原の名所や風景を紹介するイラストシリーズ



清閑亭は貴族院議員黒田長成の別邸として建てられたもので、文化財に指定され最近一般に公開されるようになった。ごんまりとしいているが日本家屋らしい落ち着きと美し

さがあり、ことに南側の庭からの眺めは広々として素晴らしい。だが玄関のある北側は一転うっそうと木が茂って昼なお暗い。それに家中に何か生々しい生活のなごりがあるような気がする。住人達の魂の気配みたいな物が私には感じられた。それで描くなら夜の景色だと思った。怪獣も邪悪な雰囲気を持った妖怪風のものもいい。ここで6月4日から「Art Now in 清閑亭」が開催される。このイラストの原画も展示されるので散歩のついでにでもどうぞ足をお運び下さい。

パリレポート3

パリ市立美術館には世界一大きなデュフィの作品「電気の妖精」がある。縦 10m横 60mという作品はパリ万博の電気館に描かれた壁画らしい。エジソンなど研究者や技術者がたくさん描かれ、多分ストーリーがある作品だと思ったが、明るく色彩豊かな軽やかな部屋は居心地がよくその空気に包まれた。

バスキアは 27 歳という若さで逝ってしまったアメリカの作家だ。子どもが描いたかのような自由でパワーある作品だった。描くことで自分を表現できなかつた作家の苦しみも感じられたが作品は一度見たら忘れられない。会場は、その作品のように自由な感じだった。日曜日とあって家族連れ、幼児の子供連れも多い。多くの人は作品の前で子供や家族と語りあっている。バスキアの生涯を話してあげているのか、絵の前でゆっくり話しながら観ている。ガヤガヤと賑やかな会場だ。子供の中には作品の前に座り小さなノートに好きな絵を模写している子、作品名をノートに写し書きながら観ていく子ども、就学前の子供たちが親と離れて自由に絵を楽しんでいる。日曜日は美術館で親も子どもも自由な楽しみ方をして過ごす。美術館がそんな場になっている事が素敵だった。

ルーブルではあのピラミッドを見ただけで感激してしまった。建物も館内も全てが重厚で居心地がよい。所蔵作品 30 万点展示作品だけで 2 万 5 千点というコレクションは 1 日では到底見きれない。またゆっくり来ようと観る前から決めていた。日曜日とあって入り口は混雑していたがミュージアムパスで待たずに入れた私達は、日本人向けのパンフレットとマップをもらいオーディオガイドの最短必見コースを選択してまわることになった。「ミロのビーナス」「サモトラケのニケ」ミケランジェロの彫刻など実にゆったりと見やすい展示だ。しかも撮影も自由という寛大さだ。2階はイタリア絵画中心の展示だった。「ナポレオンの戴冠式」ドラクロワ、ボッチチェリ、ラファエロ、ダ・ビンチの「モナリザ」かつて東京で流されるように観たことがうそのようにゆっくりと見ることができた。3階はフランス名画を中心にコロ、アングル、フェルメール、ルーベンス等贅沢な名画が並ぶ。必見コースでも大満足し、明日は休みになってしまうオルセーに向かった。

オルセーは平塚美術館がそのデザインを模したと聞いていたが、カジュアルな親しみやすい美術館だった。印象派の作品を中心に収蔵されていると聞いていたがマネ、モネ、ルノアール、シスレー、ドガ、ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌなど親しみのある作品が贅沢に並ぶ美術館で、本当に夢中で見て歩いた。オルセーでは撮影は禁止されていたがお陰でゆっくり見れたということもいえる。朝から3館目。後半はさすがに疲れてしまい大理石のコーナーで休憩していた。6時オルセー前で待ち合わせ、この夜は娘夫婦とビストロでのお楽しみ食事会となる。



翌日は朝一でオレンジリーに行った。何といてもモネの睡蓮だけを飾った部屋があるというので楽しみだった。楕円の部屋の四方の壁に4枚の睡蓮がかかっている。静かで美しい部屋だった。早朝が良かったのか私たち以外にはだれもいない。独り占めでモネを見るなんてあり得ない話だが事実だ。隣にももう一部屋しつらえてある。朝・雲・緑の反映・日没・柳のある朝の計8枚 縦2m述べ横10mの大壁画には 時間と共に移り変わる水面に映る空や雲、木の陰などが一体となり抽象画のように見えた。中央に置かれた長椅子に座ると、上は天窓のように自然光が入る仕掛けになっていた。以前直島でみたモネの部屋も美しかったが、作品の規模ではかなわない。モネは自分の死後この部屋を訪れた人が 私と同じように作品に浸る幸せを想像していたに違いない。モネのこだわりを受け入れこうした素晴らしい美術館を残した先人に感謝の気持ちで一杯になった。

オレンジリーでは 驚くことがもう一つあった。それは作品の前で模写している人がいたことだった。モネの睡蓮の部屋には女性がいた。モネの絵を見ながら描く彼女の作品は全く異なる抽象画だったが作品より世界の名画の前で 監視人もいないのに絵を描く許可を出す懐の深さに驚いた。セザンヌの静物の前にも男性がいた。彼はセザンヌの静物を模写中だった。自分のアトリエのように自由に使わせる懐の広さこそ アートを大事にするフランスの象徴のようで改めてフランスの文化の幅を感じた出来事だった。

何とかメトロも慣れて最後はボンビドゥーセンターにいった。脇には利用者のバイクと自転車が止められ、ちょうど図書館のような感じだ。ボンビドゥーは外側にカラフルなエスカレーターがついた個性的な建物だ。芸術に造詣の深いボンビドゥー大統領が 1977 年につくった複合施設で中には図書館、映画館、美術館がある。4、5階はルーブルオルセーと並ぶパリ 3 大美術館の国立近代美術館になっている。5階では現代アートの企画展をやっていた。彫刻 映像 平面 いろんなジャンルの今の作家たちの作品は 刺激的で楽しかった。近代美術館の作品も大変充実していた。印象派はもちろんマチス ゴッホ ピカソやカンディンスキー、シャガール、ダリ、ミロなど 20 世紀を代表する作家の作品がたっぷり楽しめる。残念なことにここには日本語のガイドブックが置いてない。売り切れなのか売店の方に聞いてみたが無いとのこと。中国語があって日本語が無いのはちょっと残念な気がした。



美術館はこの日沢山の子供たちでにぎわっていた。幼稚園児 小学生 中学生 高校生年齢層の異なる団体に多く出会った。人数は一クラス単位の間だ。作品の前でボランティアガイドが説明しているのを床に座ったり寝転がったりして聞いている。中学生は手を挙げて質問やディスカッションをしていた。少し声の大きい団体には、館の人が注意をしている。ノートやカードに書き込み、自由に見ているグループもあった。子どもたちにどうかという作品も全てオープンだ。子供の頃からこうしたものに触れられる環境は 素晴らしい。子供の感性豊かな時期の体験は貴重だ。「環境が人を育てている」パリはそんな町に映った。(新九郎友の会 木下和子)

「第9回西さがみ街なみ・ふる里再発見！展」作品募集

～西湘地域の魅力を再発見する作品を募集します～
～美術展を銀座通り六つの画廊で同時開催いたします～
～審査・賞などはありません。

応募されたすべての作品を展示させていただきます～
テーマ：自然と歴史に育まれた街、小田原・足柄。私たちの暮らし、営みが偲ばれる 懐かしい、楽しい、珍しい建物・街なみを再発見し、作品にしてください。

[作品制作エリア] 小田原市、南足柄市、山北町、松田町、大井町、中井町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、秦野市

[募集作品] 絵画・絵てがみ・写真

[募集期間]

6月23日(木)～7月5日(火)

詳しい募集要項は下記に置いてあります。

銀座情報プラザ 0465-22-0661
アオキ画廊・飛鳥画廊
ギャラリーコットン倶楽部
ギャラリー新九郎
ツノダ画廊



5月のこと

*平塚美術館で“悩め 描け 生きろ「画家たちの二十歳の原点」”が開催されている。(6/12迄) 明治から平成まで画家 54 人の二十歳前後の作品と言葉で紹介されている。青木繁・岸田劉生・萬鉄五郎・村山槐多・関根正二・中村彝・松本俊介・池田満寿夫・草間彌生・横尾忠則～大竹伸郎・会田誠・山口晃・石田徹也等、キラ星の如く並んだ画家の作品が熱い。槐多の「尿する禅僧」は凄く。素裸の禅僧が合掌しながら、托鉢に向け放尿している。全身から赤い光を放ち、太い描線はゴッホ並みの迫力だ。「19歳の俺が、今世にどれだけの事をして居るだろう。人格が何んだ。無だ。芸術がどれだけの物か。貧弱な物だ。もっと、力有る物を作らねば、俺は死なない。死に得られない。世に生れて、無意義な生活と、死に云わしたくない。」関根正二。青春の熱い志がほとばしる。

*時を超え、廃校になった片浦中で、若者たちが「片浦中学校で遊ぶ」という展示会を開いた。会場は根府川駅を降りたすぐ上の山、相模湾が一望できる絶好のロケーション。15日間で951人の入場者があった。ガラス・ダンボール彫刻・イラスト・インスタレーション・家具・理科標本を使った表現 etc が2～4階の教室に展開された。ハンモックでくつろいだり、映画、ライブもありと楽しさに溢れていた。いつの時代も若者のエネルギーはすばらしい。企画者のたかはしあやこさんに拍手喝采。

*第64回小田原市美術展彫塑部門で、ひでひこ氏が市議会議員賞、木下泰徳が教育委員会賞を受賞しました。☺